

陳 情	受 理 番 号	27	受 理 年 月 日	令和 7 年 11 月 20 日	付 託 委員会	教育福祉
件 名	那覇市立神原小学校の「校内自立支援室」の維持について					

みだしの件について、別紙のとおり陳情いたしますので、よろしくお願いいたします。

件名 那覇市立神原小学校の「校内自立支援室」の維持について

### 陳情の趣旨

那覇市立神原小学校に設けられている「校内自立支援室」を、次年度以降も継続して設置してほしい。

### 陳情の理由

私たちは、那覇市立神原小学校の校内自立支援室「ゆいゆい」を利用している児童の保護者です。

校内自立支援室は、さまざまな事情により教室に入ることが難しい子どもたちが、安心して自分らしく過ごし、少しずつ教室へ戻る力を育むための大切な場所です。

神原小学校の校内自立支援室は、2022 年度に開設されました。最初からうまく機能していたわけではなく、先生がたと子どもたちが一緒に試行錯誤を重ねてきました。年月を経るうちに、学校全体で校内自立支援室の意義が共有されるようになり、今は校内自立支援室で学ぶ子どもたちも学校の一員として自然に受け入れられています。

私たち保護者は、校内自立支援室のおかげで子どもが笑顔で学校に通えるようになったと感じています。保護者からは次のような声が上がっています。

「音や人の多さに敏感な子どもにとって、静かな環境で安心して学べる場所は必要不可欠。支援室の先生の理解と寄り添いが登校のきっかけになっている」

「支援室での少人数の環境により、学校を休みたがることが減り、楽しく通えるようになった」

「先生が本人をまるごと受けとめてくれたおかげで、自己肯定感が育ち、他人を思いやる気持ちが芽生えた」

「子ども同士の関係のつくり方や、学校へ通うことの意義を学べた」

このような子どもたちの成長は、校内自立支援室と先生がたの理解ある関わりの積み重ねによるものです。

校内自立支援室では、日々の学習のほかに、文化祭や卒業生を送る会といった独自の活動を児童の発案で行っています。教室ではなかなか前に出られない子どもも、支援室では自分からやりたいことに挑戦し、人に見てもらう喜びを感じています。

こうした活動が実を結ぶまでには、先生がたの粘り強い努力と、子どもたちの小さな一步一步の積み重ねがありました。校内自立支援室は、一朝一夕でつくれる場所ではありません。時間をかけて信頼関係を築いてきたからこそ、今のかたちがあります。

那覇市内で校内に支援室を設けている小中学校はわずか5校に過ぎず、毎年、設置校の見直しや存続が議論されています。しかし、神原小学校の支援室には、何年も通い続け、ようやく安心できる居場所を見つけた子どもたちがいます。もし支援室がなくなれば、子どもたちは居場所を失い、不登校に戻ってしまう可能性があります。

校内自立支援室は、一部の児童のためだけの特別な場所ではなく、どの子も安心して学校生活を送るための居場所です。環境や人間関係などの変化により、一時的に教室に入ることが難しくなる児童もいます。そうした子どもたちにとって、校内に教室以外の居場所となる支援室があることは、不登校を防ぐ重要な役割を果たしています。校内にあるからこそ、給食の時間だけでも教室に顔を出したり、少しずつ授業に参加したりしながらクラスメイトとも関わり続け、段階的に教室復帰を目指すことができます。校外の学習支援室もありますが、どうしても学校とのつながりが薄れてしまいます。校内自立支援室は、学校に所属しながら安心して過ごせる大切な居場所なのです。

神原小学校の校内自立支援室は、那覇市内、さらには沖縄県内の小中学校におけるモデルケースとして、今後の支援教育のあり方を示す貴重な実践例です。どうか、ここで培われた関係と環境を途絶えさせることなく、次年度以降も継続して設置していただけますよう、強くお願い申し上げます。